

～活動の報告と計画～

研修委員会

委員長 桜木こどもの森 岡田博次

新たな制度、加速する少子化、多様化する子ども・保護者・保育者。変化し続ける社会において、我々が研鑽を重ね知見を深めることは喫緊の課題となっています。

今年度も、保育の質の向上につなげるべく充実した研修計画を進めて参りますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

新採研修（五月）では、約六十名の参加者が、保育士（所）の使命と役割、SNS利用時の倫理的判断、接遇等について学びました。所長研修会には、川田学氏（北海道大学・教授）をお招きし、子どもの主体性についての学びを深めました。

育児相談研修会では、本年度も有沢孝治氏（東海大学・教授）をお招きし、保護者支援について理論と実践を学びました。

年度内に計画中の研修会は次の通りです。

○民間園長研修会（十月二十三・二十四日）

○施設長研修会（十二月十九日）

○新規採用予定職員研修会（二月・各支部）

※本年度より東部・中部支部合同開催

予算対策委員会

委員長 中里保育園 青野貴芳

周知の通り、四・五歳児及び一歳児の配置改善に対する加算措置が始まりました。

配置基準の改善を、更に要望していく必要

があり、さらに、今回の加算措置に合わせて県や市町からの従来の補助がなくならないよう注視していく必要があります。

そのため、県保連では、配置基準の改善を中心に、以下の九項目を静岡県に要望します。

①職員配置基準について、特に、(1)乳幼児保育事業の充実について(2)四・五歳児の配置基準(3)調理員の配置基準(4)開所時間や利用児童数に対する配置基準(5)延長保育事業への補助について(6)「特別な配慮が必要な子」の増加、の観点から改善を要望します。②キャリアアップ研修受講定員数の増加について要望します。③園児数の減少、定員割れへの対応について要望します。④物価高騰への対応について要望します。⑤保育士確保及び定着促進のための環境改善支援策を要望します。⑥年度途中入所サポート事業の継続について要望します。⑦南海トラフ地震等大震災に対する安心・安全な施設の充実が図られるよう要望します。⑧産休等代替職員雇上事業の補助基準額の増額について要望します。⑨不適切保育等事案が発生した際の対応ガイドラインの選定や第三者委員の候補リスト作成を要望します。

認定こども園委員会

委員長 慈恩こども園 土山龍之

二〇〇六年十月から、認定こども園制度が始まりました。それから県内でも約二十年の間に、公私立・施設類型は様々に三八〇園を

超える施設がこども園へ移行しています。静岡県保育連合会として、県内の加盟園に対し「認定こども園の現状や課題を整理し、情報発信や対応策などを検討する」「認定こども園への移行を検討している施設について支援をしていく」「公立・民間会員の現状や課題について整理・把握し、認定こども園他団体との協力体制の構築について検討する」など、「認定こども園特有の課題」へのサポートをしていくために、この委員会が立ち上げられました。

六月下旬に第一回目の委員会が開催され、各委員から現状や課題などが挙げられ議論がされました。年度内に数度の会議を行い、当委員会の方向性を確立して、加盟園が地域子育て拠点として中核を担っていくための手伝いをしていければと考えています。

キャリアアップ委員会

委員長 ルンビニあゆみ園 野中 徹

令和七年度の静岡県保育士等キャリアアップ研修会は昨年度のeラーニングの募集人員をさらに三二〇名増の受入れを確保し実施します。

毎年、定員を増やしつつおこなっているキャリアアップ研修ですが、いまだに定員を上回る申し込みがあり、多くの方が受講不可となっている現状があります。経験を積んだ職員の知識・技能の向上に応じた追加的な賃金の改善にあたり、対象者の認定が修了しても、

対象者の産休育休・退職などを考慮すると、まだまだ研修受講者が多くいることが予想されます。何より、資質向上のためのキャリアアップ研修です。四分野のみならず残りの分野も学びたい方が多くいることでしょう。受講された皆様が本来の目的である保育の質の向上につながり、研修の効果を十分に得られるよう今年度も計画させていただきます。引き続きご理解とご協力よりしくお願いいたします。

保育者養成委員会

委員長 野中こども園 中村章啓

昨年度、静岡県保育連合会独自の保育実習受入マニュアル作成のために立ち上げられた「実習受入マニュアル作成委員会」の後継委員会として発足しました。マニュアルの実効性を高め、会員園の保育実習の質が向上することを通じて、将来の保育を担う保育学生が安心して実習に臨めることを第一の目的に活動していく予定です。

また、保育の二〇二五年問題を見据えつつ、当面の保育士不足の解消を重視して、県保連と保育士養成施設との連携を強化するために、意見交換会等における議論の充実のための調査・研究等も視野に入れています。

六月末に第一回委員会を開催し、マニュアルの早期完成・配布を目指すとともに、様式集・FAQなどの付帯資料も作成を進めることになりました。そのために、県保育士会と

協力し、七月・十一月開催のリーダーセミナーにおいて、実習・採用に関連した各施設の課題・負担感・不安などを調査し、県保連および養成施設と情報共有するとともに、マニュアルに反映させる予定です。

海外交流委員会

委員長 認定こども園 原町保育園
鶴谷由美子

昨年度は四年ぶりに海外交流研修が実施され、南シナ海に面した東南アジアの国「ベトナム」の保育施設を視察してきました。

今年度は「タイ・バンコク」にあるドウアン・プラティープ財団というNGO団体が運営している幼児施設とバンコク郊外の幼稚園を訪問する予定です。ドウアン・プラティープ財団はタイ最大のスラム、クロントイの住民を支え続けていて、財団の創立者プラティープ氏は「アジアのノーベル賞」と言われている「マグサイサイ賞」を受賞しています。

バンコク市内においては、グループごとに分かれテーマに沿った研修、フィールドワークプログラムを新たに取る予定です。

日本とは違う保育教育、文化や生活に触れ見聞を広めると共に、研修期間を共に過ごす仲間との親睦を深めるとてもいい機会になりますので多くの皆さまにご参加いただきますようお願いいたします。

少子化対策委員会

委員長 認定こども園 原町保育園
鶴谷由美子

毎年十一月は児童虐待防止推進月間と定められており、静岡県でも「児童虐待防止静岡の集い」が静岡市民文化会館中ホールで開催されていきました。今年は、ベルテックス静岡様ご協力のもと児童虐待防止のためのイベントや各地区でのライトアップなどがあるようです。

保育所、認定こども園利用者以外に子育て支援への関心と理解を求める啓発活動の経費（二事業五万円）を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。各支部三事業の予算を組んでおりますのでご利用下さい。

また、啓発品についてデザインも新たに作った「あいあいホットマーク」のクリアファイル、付箋セットのほか、ピンバッチなどもありますので、協力金へのご支援もよりしくお願いいたします。

広報委員会

委員長 沼上こども園 森下健二

これからたくさん情報発信していきたいと思えます。

広報委員会では、これからも新しい企画を募集しておりますのでご意見、ご感想をお寄せください。